

人づくり通信

2016年12月1日発行 2016年版 公益財団法人酪農育英会刊

「幸福なる人生とは」・・・

黒澤西蔵翁の回想談から

酪農育英会理事長 仙北 富志和



黒澤西蔵翁が、私財を投じて酪農育英会を創設したのが1957（昭和32）年である。それからおよそ60年、ご親族をはじめ酪農学園後援会、多くの会社・団体・個人からの寄付金により今日がある。設立に当って、育英会の名称に「黒澤」を冠することが提案され

たが、西蔵翁は「自分だけの力ではない・・・」と言って固辞したとのことである。

西蔵翁が、意欲を持ちながらも経済的な理由で勉学を諦めざるを得ない青年に、奨学金を供与することを思い立ったのは、自身の青少年期の「貧困体験」にあることはよく知られている。

西蔵翁は、この貧困体験があったからこそ「幸せがある」と、回想している。最晩年（94歳）の1979（昭和54）年、月刊専門誌「近代酪農」（「酪農ジャーナル」の前身）に、西蔵翁の「幸福なる人生」と題する回想が残されている。

勉学に励んでいる前途有望な青年諸君へ贈るメッセージとして紹介したい。（要約）

私はいつもそうなんだが、自分ほど幸せな人間もそうおるまいと考えている。自分ほど幸福な者は無いと満足している人にはかなわない。他人からみて、いくら幸福そうにみえても、当の本人が満足していなければ、これこそ不幸な人といわなければなりません。

だから日々感謝する、満足する、自分は幸せだと考える・・・こういう態度が必要なんです。不平不満ばかりを並べる人は、実に不幸だといわなければなりません。こういう人は、その不平や不満が自分自身の問題に根ざしていることに気がついていない。「人生意の如くならず」といえば、そんな思い通りにいくなつてことはありはしない。若い頃は、特にこれをハキ違えている。

僕自身は、心の底から貧乏な家に生まれて幸せだったと考えておる。もし金持ちの家に生まれていた

ら、こんなに努力しただろうか、頑張ったろうか。言葉でいい現せない貧乏をなめ尽してきました。その中で、苦勞する母親に育てられてきましたから、何とか母親に楽をさせたい、孝行したいと願って努力したんです。だからどんなに辛くても、一生懸命努力する、その積み重ねの人生なんです。僕の今日を作ったのはこの貧乏なのです。

これは、人生の大学で揉まれたおかげです。僕だって大学を志したこともあるし、そのために発奮したこともあります。しかし、弟や妹をまず食わせていかなければならない。経済的に自立することが、何よりも先決でした。大学に行けなかったことは、決して不幸なことであったとは考えていません。そんなことを考えるヒマもなかった。

僕はよく、「発心正しからざれば、万行むなし」と言っている。正しい努力を続ける以前に、「発心」もまた正しくなければならぬ。いくら努力、努力といっても、世を害し、自らも誇れぬものであっては意味がない。

正しく世のため、人のためになることを目指す。これを理想という。一個の会社にしても、ただ儲ければいいというものではない。学校にしても、ただ生徒を集めればよいというものではない。この見極めに骨を折らなければなりません。

だが、「人生いたるところに青山あり」といっても、並大抵のことで成功するものではありません。かならず成功させる価値がある、という信念で努力に努力を重ねることです。世のため人のために尽くして、だれはばかることがないという心境になったとき、事業の成否はともかく、その人は「幸せであった」といえます。

逆境とか不遇とか、失意のときは、かならず人生にはつきものです。その人の真価は、かえってそのようなときに現れるものです。また、そのときでも幸福だと考えられる人が、一番の幸せ者でしょう。

西蔵翁の人生訓を改めてかみしめ、「奮励努力」の糧としたい。



北海道のエゾシカにおける節足動物媒介性ウイルスを対象とした人獣共通感染症の疫学調査
(研究奨励金成果報告)

酪農学園大学獣医学群獣医学類
人獣共通感染症学ユニット 助教 内田 玲麻

私は酪農学園大学獣医学群・獣医学類の人獣共通感染症学ユニットで助教を務めております、内田玲麻（うちだれお）と申します。2011年、本学の獣医学科を卒業し、長崎大学熱帯医学研究所、ウイルス学分野で博士課程を専攻致しました。2015年より縁あって母校に帰る機会を頂き、現在は北海道における節足動物媒介性ウイルスの血清疫学、分子疫学研究を行っております。着任当初、なかなか競争的外部資金が得られない状況の中、2015年度酪農育英会研究奨励に採択いただき、こうして本研究を進めることができました。この場をお借りして皆様に深く御礼申し上げますとともに、本研究の成果、および今後の展望について報告させていただきます。

研究背景および目的

近年、急速な交通網の発達および大規模な気候変動を背景に、節足動物により媒介されるウイルスの分布域が拡大しています。日本脳炎、ダニ媒介性脳炎、重症熱性血小板

減少症候群（SFTS）等の蚊あるいはマダニ媒介性感染症は、その多くが人獣共通感染症であり、宿主となる動物の感染状況を知ることが、ウイルス分布域の把握、防疫対策等において重要です。本研究は北海道のエゾシカにおいて、人獣共通感染症として重要な3種の節足動物媒介性ウイルスに対する抗体および血清中のウイルス遺伝子を、Indirect ELISA法およびReverse transcription-PCR（RT-PCR）法で調べることで、エゾシカの感染状況、またウイルス分布域を把握することを目的としました。

結果および今後の展望

2011～2014年にかけて北海道の日高地方および道北地域において捕獲されたエゾシカの血清100検体ずつ（計200検体）を本研究に共試しました。Indirect ELISA法では、ダニ媒介性脳炎ウイルス（TBEV）に対し、高い抗体価を示すものが7検体確認されましたが、日本脳炎ウイルス（JEV）、SFTSウイル

ス（SFTSV）に対し有意と思われる陽性血清は認められませんでした（図1）。これら7検体についてTBEV感染細胞を用いた間接蛍光抗体法を実施しましたが、陰性血清との有意な差は認められませんでした。また、RT-PCR法では、上記3種のウイルスに対する遺伝子はいずれも検出されませんでした。

今回の結果から、①エゾシカがTBEVに対し感受性を有すること、および②これまで報告のあった道南、道央地域に加え、道北地域、日高地方にもTBEVが分布することが示唆されました（図2）。今年8月には北海道でTBEV国内感染2例目にして、初の死亡例が報告されており、ウイルス分布域の把握は急務であります。一方、JEV、SFTSVでは、抗体陽性血清が認められなかったことから、北海道にこれらが分布する可能性は低いと考えられます。現在、道東地域のエゾシカ100検体を追加し、TBEVに対する中和活性の評価を含め調査を継続しており（2016年度熱帯医学研究拠点一般共同研究採択）、今後はエゾシカ以外の野生動物を含めた調査を展開していきたいと考えております。

成果発表

内田玲麻、早坂大輔他、北海道のエゾシカにおける節足動物媒介性ウイルスを対象とした疫学調査、第159回日本獣医学会学術集会 公衆衛生学分会、FO-72、2016年9月8日、神奈川

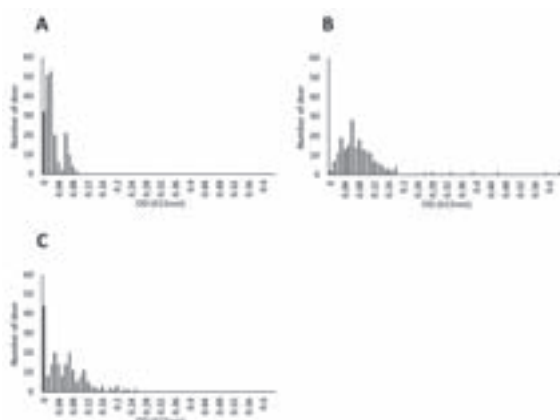


図1. ウイルス抗原を用いたIndirect ELISA
A. JEVワクチン抗原、B. ホルマリン不活化TBEVおよびC. SFTSV Nucleocapsid組み換え蛋白に対するIndirect ELISA。縦軸はシカ頭数、横軸は415 nmにおける吸光度を示す。血清希釈は1:500とし、2次抗体には抗シカIgG-HRP共役抗体、発色基質にはABTSを用いた。



図2. 北海道におけるTBEV分布状況
イヌ、ウマ、小型げっ歯類、エゾシカのTBEV抗体保有状況。星印は今回の調査で新たにTBEV分布が疑われた地域を示す。1. Takashima I. et al., J Clin Virol. 1997, 2. Takeda T. et al., Am J Trop Med Hyg. 1999, 3. Yoshii K. et al., J Vet Med Sci. 2011。



日本に留学して学んだこと

酪農学園大学 農食環境学群
食と健康学類3年生

アジア・ジュラット

私の名前はアジア・ジュラットです。2014年4月に酪農学園大学の食と健康学類に入学し、現在、3年生です。父が酪農学園大学に留学していたため、私は中学生の時から日本で暮らすことができました。

私にとっての初めての外国生活、日本人の文化を全く知らず、言葉が通じない中で、きちんと生活していけるかどうかはとても心配でした。しかし、私は人見知りの性格じゃなく、誰とでも仲良くなれる明るい人なので、中学校に入ってすぐに友達できました。日本の学校にもっと慣れるために、日本語の勉強もしつつ、バレーボール部に入部しました。

高校に進学し、ボランティア部に入部して、マラソンの給水や老

人ホームのお手伝いなど、様々な活動をしました。また、高校2年生の時に、初めてアルバイトを経験しました。3年間、勉強とアルバイトと部活でとても充実した高校生活を送ることができました。

大学に入ると学校生活がもっと充実し、ダンスの大好きな私は、ダンスサークルに入りました。中学校や高校であまり関わりのなかった国際系の活動に参加するようになり、サークルのメンバーとドライブで稚内まで行ったり、夏休みに友人と韓国に旅行で行ったり、通訳の短期バイトで道内を回ったりして、一気に大人になった気分でした。こうした経験があるからか、私は色々な所に行き、やりたいことやもっと行ってみたい場所がたくさん増えました。

今回、酪農育英会の奨学金を貰えることができ大変嬉しく思います。今は、奨学金の支援があるからこそ、アルバイトにかけている時間を減らして、他にやりたいことをしています。

現在、私は食品物流科学の勉強をしているけれども、将来は言語を活かした仕事をしたいと考えています。また、ボランティアで、他の留学生に日本語の勉強やお手伝いができたらいいなと思っています。



第68回日本酪農研究会—酪農経営コンクール— ～酪農育英金を授与～

日本酪農青年研究連盟主催の酪農経営コンクールが、全国の青年酪農家約250名の参加の下、2016年11月16日神戸市で開催された。

コンクールは、全国各地から選抜された6名によって競われたが、最優秀賞（黒澤賞）には、北海道の幌延地方連盟（南川口研究会）の中嶋仁志さんの「家族・地域と共存する経営をめざして」が選ばれた。繋ぎ牛舎で最新鋭の省力化システムを導入し、地域の平均的な家族経営の2倍の経営規模を実現したことが高く評価された。優秀賞には北海道の西部十勝地方連盟（清水中央研究会）の藤井 稔



さんの「究極の酪農経営法人を目指して」が選出された。

ご両人には、更なる研鑽を期待して本育英会から酪農研究奨励金（20・10万円）が授与され、盛会裏に幕を閉じた。



2015年度の事業報告及び2016年度の事業計画

2015年度事業報告

1 奨学金貸与事業：26名に対し、総額12,480,000円を貸与した。

内訳	予算		決算		差異	
	人数	(千円)	人数	(千円)	人数	(千円)
大 学	32	15,360	26	12,480	6	2,880
大 学 院	1	600	0	0	1	600
高 等 学 校	2	480	0	0	2	480
計	35	16,440	26	12,480	9	3,960

2 奨学金給与事業：17名に対し、総額4,320,000円を給与した。

内訳	予算		決算		差異	
	人数	(千円)	人数	(千円)	人数	(千円)
私 費 大 学	1	480	1	480	0	0
留 学 生 大 学 院	4	2,400	4	2,400	0	0
高 等 学 校	15	1,800	12	1,440	3	360
邦 人 留 学 生	1	480	0	0	1	480
計	21	5,160	17	4,320	4	840

3 酪農研究奨励金交付事業：

1 個人に対し300,000円を交付した。(予算300,000円)

1 団体に対し300,000円を交付した。(予算300,000円)

・酪農学園内の40歳未満の教職員1名に対し交付した。

獣医学群 獣医学類

内田 玲麻 助教 300,000円

『北海道のエゾシカにおける節足動物媒介性ウイルスを対象とした人獣共通感染症の疫学調査』

・日本酪農青年研究連盟に対し、第67回日本酪農研究会における最優秀賞（黒澤賞）などの副賞として交付した。300,000円

最優秀賞：本田 憲一（北海道）

「日々是新（ひびこれあらたなり）」

優 秀 賞：結城 欣也（福岡県）

「牛・家族・地域とともに！！」

2016年度事業計画

1 奨学金貸与事業：30名に対し、総額14,040,000円を貸与する。

内訳	予算		予算（前年）		増減	
	人数	(千円)	人数	(千円)	人数	(千円)
大 学	27	12,960	32	15,360	△5	△2,400
大 学 院	1	600	1	600	0	0
高 等 学 校	2	480	2	480	0	0
計	30	14,040	35	16,440	△5	△2,400

2 奨学金給与事業：18名に対し、総額4,800,000円を給与する。

内訳	予算		予算（前年）		増減	
	人数	(千円)	人数	(千円)	人数	(千円)
私 費 大 学	2	960	1	480	1	480
留 学 生 大 学 院	4	2,400	4	2,400	0	0
高 等 学 校	12	1,440	15	1,800	△3	△360
邦 人 留 学 生	0	0	1	480	△1	△480
計	18	4,800	21	5,160	△3	△360

3 酪農研究奨励金交付事業：

1 団体、1 個人に対し総額600,000円を交付する。

・日本酪農青年研究連盟 第68回日本酪農研究会における最優秀賞（黒澤賞）などの副賞（酪農育英金）として交付する。

300,000円

・酪農学園内の40歳未満の教職員1名に対し交付する。

300,000円



公益財団法人 酪農育英会 評議員、役員等一覧（2016年12月1日現在）

(理 事)	(評議員)	(監 事)
理 事 長 仙北富志和	評 議 員 麻田 信二	監 事 昌子 守彦
常務理事 日下 雅順	〃 菊地 政則	〃 安宅 一夫
理 事 小山 久一	〃 榮 忍	
〃 永田 享	〃 真田 昭好	事務局長 関 浩一
〃 野村 武	〃 谷山 弘行	
〃 堀内 信良	〃 山崎 恵子	
〃 町村 均	〃 矢野 征男	

酪農育英会だより
2016年12月1日発行 2016年版

公益財団法人酪農育英会
〒069-8501 江別市文京台緑町582
TEL 011-386-1211
E-mail : rg-ikuei@rakuno.ac.jp

印刷 北海道リハビリ